

館長のガラストーク



妖精の森ガラス美術館
館長 畠山 耕造

今回は藤田喬平さんの「^{かざりばこ}飾篭」を取り上げます。藤田さんについては、2年前にも「藤田喬平ガラスアート展」を開催しているので、ご覧になった方もいると思います。

初めてみる方は、皆さん一様に「これがガラスですか?漆を塗って金箔を貼ったようですね」と驚きの声をあげます。そうです。これは全部ガラスで出来ているのです。

竿の先に巻き取ったガラスがまだ熱いうちに、作業台の上に並べた金箔やプラチナ箔、さまざまな色ガラスの粒(この場合、紅白梅を表す赤と白のガラス)を巻き取って、金属の型の中に吹き込みます。冷めてから、筒状になったガラスを切断し、その部分に銀の金具(覆輪)を取り付け上下の箱物にします。桃山時代の障屏画や琳派に代表される、日本の華麗な装飾様式をガラスで実現した作品として国際的にも高い評価を受けています。

ヨーロッパで、観客から「その箱には何を入れるのですか?」と質問された藤田さんは「Your Dream (あなたの夢を入れなさい)」と答えたそうです。それ以来、欧米では「フジタノハコ」を「Dream Box (夢の箱)」と呼ぶようになったということです。



藤田喬平「紅白梅飾篭」



ウランガラス 新作



ロックガラス



ペーパーウエイト

○8月の「館長のギャラリートーク」は、8月22日(日)に開催いたします。
午前11時と午後2時からの1日2回で、40分程度のプログラムとなります。
定員は10名程度で予約制となりますので、お早めにお申し込みください。

問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 TEL 0868-44-7888